Danza de los Voladores

メキシコの雨乞い儀式 「ボラドーレスの舞」

@EL TAJIN



30Mを越える鉄塔に登る 5人のボラドーレス

この舞いの間、1人の男性は鉄 塔の先に立ち、雨を乞う笛を吹 きながら、命綱無しで踊り続け ます。



儀式はかなり命がけ!

ボラドーレスの身体と鉄塔を結 ぶのは足に括られたたった一本 のロープだけ。地上に着くまで、 ロープを解きながらくるくる回 り続けます。



観光資源となった文化

現在では主に観光客向けのパフォーマンスとして行われることが多いというこの儀式。かつて事故が起きたこともあったことから、ボラドーレスを養成するための学校もあるんだとか。

VERACURUZ



メキシコ最大の港、ベラクルス

どうもこんにちは。ある休日の晴れた昼間、光の都合でカーテンを閉めきった部屋にて黙々と絵を描いておりましたら、心配性の大家さんから「メランコリーなニーニャ(女の子)」という謎の称号を与えられ、以後自室のカーテンを勝手に開けられてしまうようになった井上です。 おいおいおか

ベラクルスの伝統衣装は 真っ白で細かいレースが 施されているのが特徴。 そしてこの衣装に少しも 劣らぬ、華やかな踊りと 笑顔も本当に素敵でした。 メキシコの中でもとりわけ重要な港を持つベラクルスでは、年に 1度この時期に、広々としたビーチ沿いで国内最大級のカーニバル が開かれます。鼓膜をぶち抜くようなソンハローチョ、レゲトン、 サンバ、サルサにのって、きらびやかな衣装を身に着けた人達(あ く踊り散らかすのを見ていると、当然観客も例外無く皆ノリノリに なってしまいます。観客席とショーのエリアは警察官によって完全 に分離されていたのですが、そんな制止は振り切って、みんな一緒 に、一生懸命踊っていました。踊ること、歌うこと、そうして自分 を魅力的に演出すること、誰かに対して、イイ⋒♥!と感じること結局こういうことには、年齢とか性別みたいなものは何の関係も ないんですね。ベラクルスのおじさま、おばさま方のその巧みな腰 さばき (ダンスの話ね 笑) やリズム感といったらまさに感嘆に値 するし、目の前で踊る人間が何歳だろうが、まして「男」だろうが 「女」だろうが、魅力的な人はやっぱり(性的な意味も含めて)魅 力的!!! 人に惹かれるということに本当に「正しさ」とか「健全 さ」みたいなものを求めなくちゃいけないとしたら、それってひた すら、ここ1点に帰結するんじゃないかなって、私はメキシコに来 てよく思うようになりました。だってみんな、本当に側にいたい人 と一緒にいて、幸せそうに笑っているもの。それを阻害するような 社会的意志と闘いながら。肥大化した恥じらいとカテゴライズの空 気にかぶれてきたこのメランコリー少女も、彼らのまっすぐなエナ ジーに魂を洗われ、そんなことを考えました。

まとわりつくような暑さ、湿気、肌を刺すような日射し… ベラクルスはメキシコの別荘地のひとつでもあるけれど、その気候は日本の夏そっくり。今回一緒に旅行に同行し別荘まで貸し出してくださったメキシコ人の方に、「このベラクルスの気候は休暇を過ごすには少しきつくないですか??」と尋ねてみました。すると彼は、「実は僕はこの気候が本当に大好きなんだよ。若い頃ずっとこのベラクルスの港で船の出入りに関わる仕事をしてた。ここにはそのときの仲間との思い出とか、すごく素敵な女の子とデートした思い出とか、本当にいい思い出がある。そういうものを、この気候と海で思い出すんだよ。」と答えてくれました。帰国後私も、日本の夏の中に、ベラクルスでの思い出の断片を感じられるかしら。

@ COATEPEC





ベラクルス州コアテペックは植民地時代から続くコーヒー生産の中心地ですが、私にとって一番印象的だったのは、なんと「100年」の間「一日も休むこと無く」営業を続けているという神がかったパン屋さん「エル・レソバード(EL RESOBADO)」。焼き釜にこびり付いて30CM近い厚さになっていた真っ黒な煤(すす)が、その歴史を物語っています。パンはどれも装飾が凝っているけど、素朴な甘さで、優しい味わいでした(4個も食べた)。

@ EL TAJIN



エル・タヒンはAD600~1200頃まで繁栄した古代の宗教儀礼の中心地(球戯場)で、球戯に勝利した者は生贄として神に捧げられていました。ピラミッドの四角い窪みは365個で、当時の人々が天体の動きを正確に読み取り、1年を365日と解して作ったカレンダーでもあったのだそう。しゅごい!